

WGについて

技術開発・導入WG

【目的】 最新技術の現場導入のための新技術発掘や企業間連携を促進

主な取組内容

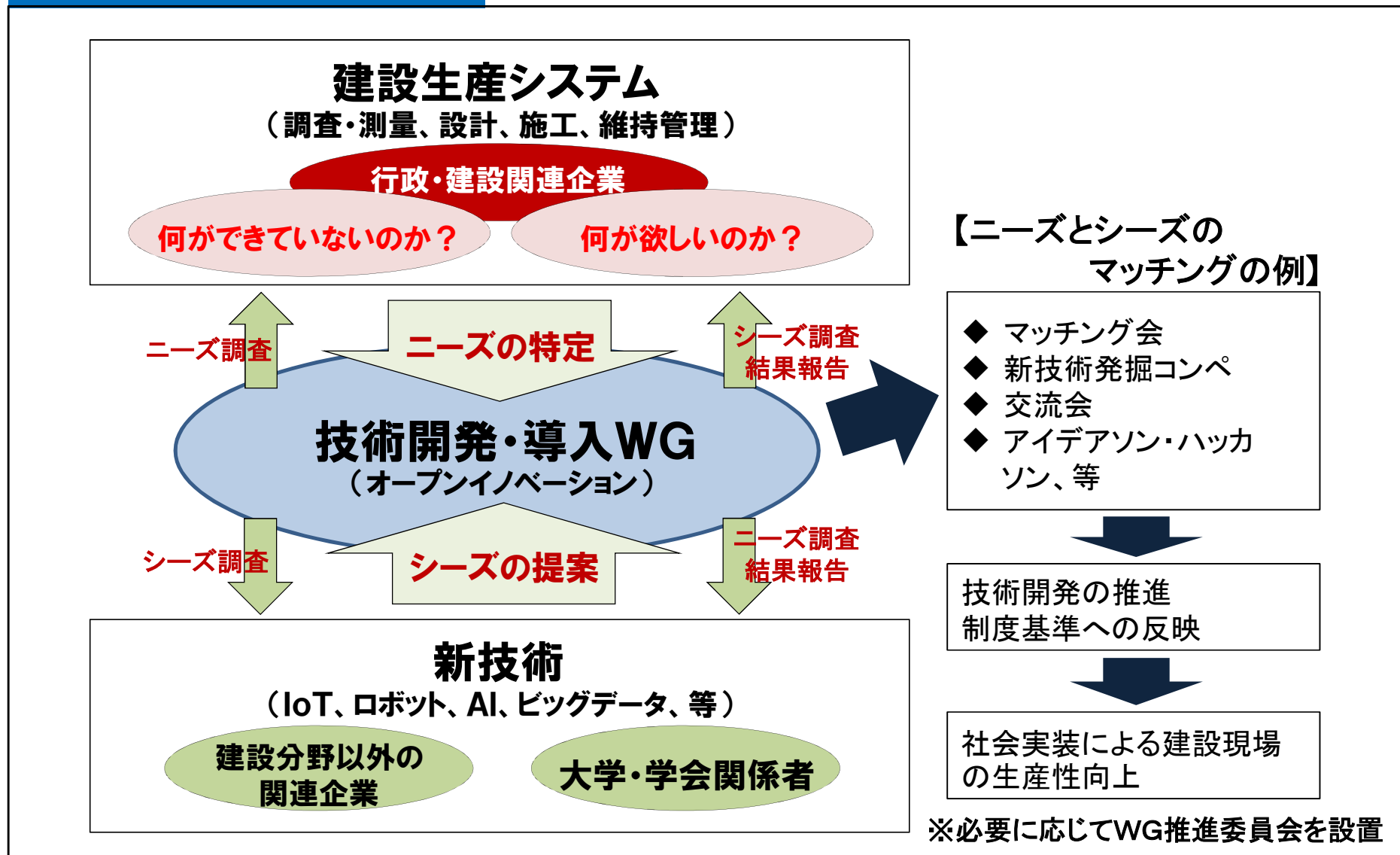
- 企業間連携の場の提供
 - ・行政ニーズや現場ニーズ、技術シーズの抽出
 - ・ニーズとシーズのマッチング
- 技術開発の促進
 - ・国等が指定するテーマに基づく技術開発
 - ・企業間で技術開発された有用な技術の普及拡大 等
- 社会実装に向けた制度基準の課題と対応

国による支援

- 研究開発に係る助成
 - 社会実装へ向けた制度基準への反映
 - 情報発信の場の提供
- NETIS(新技術情報提供システム) 等

社会実装により、建設現場の生産性向上を目指す。

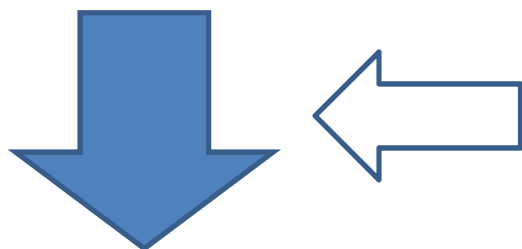
WGの活動イメージ



【目的】 3次元データの利活用促進のためのデータ標準やオープンデータ化

主な取組内容

- 3次元データの集積・利活用のためのルール構築
 - ・建設生産システムに必要な3次元データの内容
 - ・データ標準(データ交換仕様)
 - ・セキュリティー対策
- オープンデータ化
 - ・オープン/クローズの範囲、公開方法の検討
- 3次元データ共有プラットフォームの構築・官民連携による運営管理



国による支援

- 3次元データ利活用に向けた制度・基準への反映

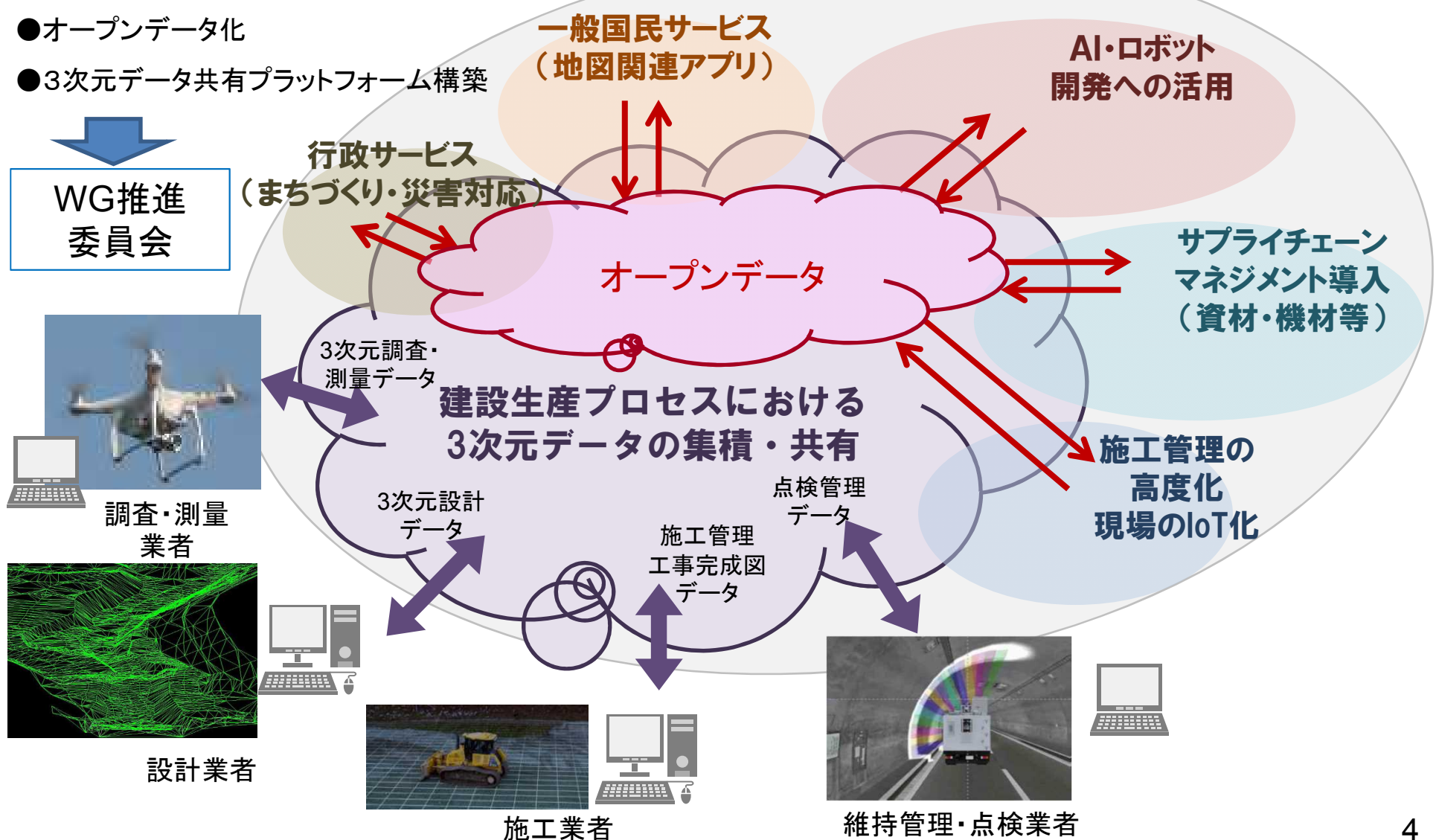
シームレスな3次元データ利活用環境整備、オープンデータ化による新たなビジネス創出

3次元データの利活用促進のためのプラットフォーム構築(イメージ)

検討項目

- 3次元データの集積・利活用ルール構築
- オープンデータ化
- 3次元データ共有プラットフォーム構築

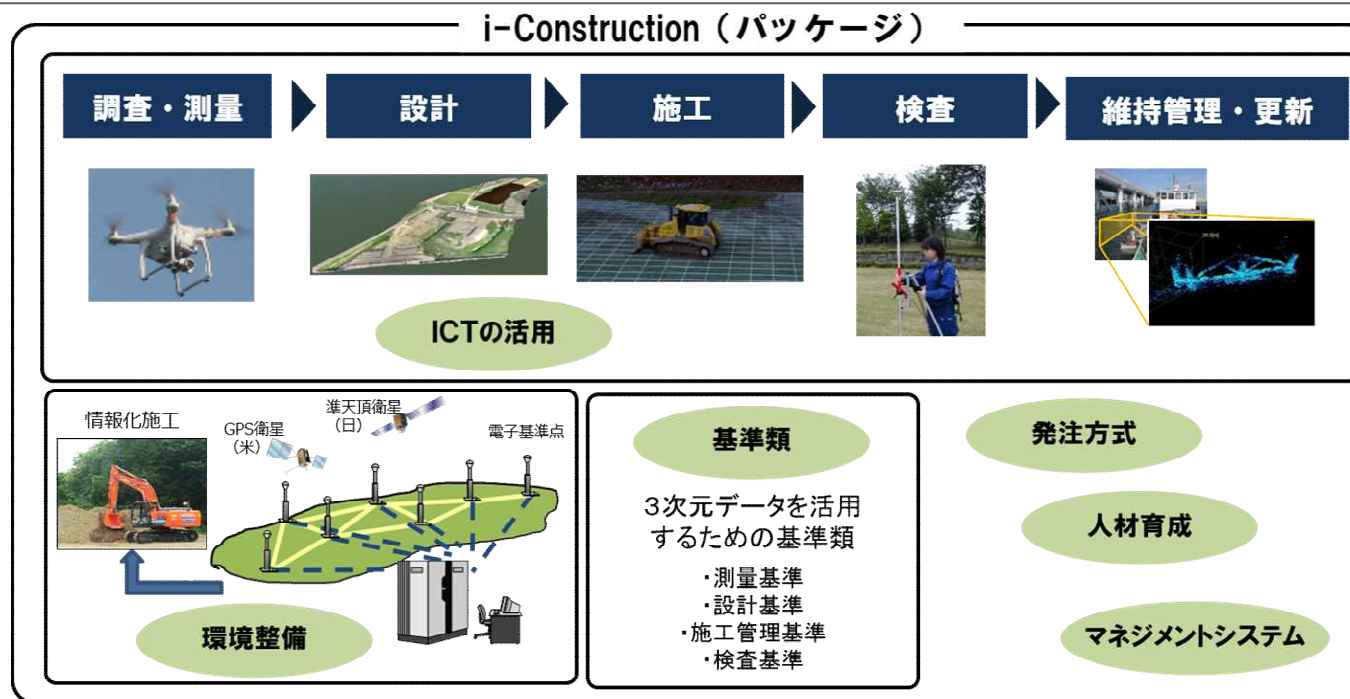
3次元データの共有と利用拡大



【目的】 i-Constructionの海外展開方策を検討

主な取組内容

- 国際標準化・パッケージ化等海外展開の方策の検討
 - ・i-Constructionに関する基準類の国際標準化の動向の把握
 - ・i-Constructionで構築したICT、マネジメントシステム、発注方式、検査方式等のパッケージ化の検討 等



i-Constructionをパッケージ化し海外展開



- **国が主導**してBIMに係る政策を打ち出し、積極的に推進している。
 - BIMの重要性を早くから認識し、2013年に**Construction 2025**を公表。2016年までに公共調達においてBIMを義務化。**2025年に完全BIM化を目標。**
- BIM推進のために**教育の重要性**を認識し、産官学が連携して取り組んでいる。



- **国が主導**して、BIMを推進している。例えば、連邦調達庁と陸軍工兵隊のプロジェクトでは、**BIMデータ (IFC (Industry Foundation Classes)) の図面提出を要求**している。
- 各州の運輸局は自ら作成した**3次元設計データを施工者側に提供し、出来高算出に使用**し始めている。



- **国が主導**してBIMを推進し、建設資材価格の高騰や現場労働者の海外依存の増加といった状況からの脱却を図るために、2018年には、**国土全体の3Dモデル化を目指す**など先進的な取組を進めている。
 - 2009年 BIMの電子申請の導入
 - 2013年 **2万㎡以上の建築申請において意匠に関するBIMデータの提出**
 - 2014年 構造及び設備に関するBIMデータ提出
 - 2015年 **5,000㎡以上の建築申請において、意匠・構造・設備のBIMデータ提出を義務付け**

出典：欧州におけるCIM技術調査 2014 / BIM を実現する標準データモデル IFCおよびその国際的な活用動向 / シンガポールにおけるBIMの現状と将来展望
BIM：Building Information Modeling
コンピュータ上に作成した3次元の形状情報に加え、室等の名称・面積、材料・部材の仕様・性能、仕上げ等の建築物の属性情報を併せ持つ建物情報モデルを構築することをいう。(国土交通省「官庁営繕事業におけるBIMモデルの作成及び利用に関するガイドライン」より)